



AQU 先端テクノロジー総研 《ニュースリリース》

報道関係者各位
プレスリリース
2013年12月11日

お世話になっております。
AQU 先端テクノロジー総研と申します。
ニュースリリースをお送りしますので、よろしくお願いいたします。

ウェアラブルにビジネスチャンス！
最先端ビジネスモデル調査報告書が完成！ AQU 先端テクノロジー
NEXT ビジネス企画構想プロジェクトを提案、参加企業募集！

<http://www.aqu.com/wearable-business/>

<http://www.aqu.com/aqu-news/2013-12-11.pdf>

<http://www.aqu.com/wearable-business/sample-1.pdf>

<http://www.aqu.com/>

ニュースリリース

内容サンプル

AQU メインページ



先端技術市場の調査会社、AQU 先端テクノロジー総研(AQUARIUS 最先端研究所) (代表、子安克昌)は、このたび、調査報告書『ウェアラブル・デジタルの最先端ビジネスモデルの開発動向と戦略 -ビジネスモデルの新潮流、アプリ開発、市場戦略に関する調査-』を発刊しました。

ビジネス戦略を進める上で、ビジネスモデルの重要性は年々高まっています。かつてAQUARIUS 最先端研究所では、米国におけるインターネットベンチャーを調査、数多くのビジネスモデルを調査したことがありますが、当時、時を同じくして、同様に米国ベン

チャーのビジネスモデルを調査していた人物は、その後、ソーシャルメディア企業を設立、上場を成し遂げ、企業グループを持つなど、サクセスストーリーを描きました。時代の最先端ビジネスモデルを数多く調査研究することは、事業を成功に導く上で、重要なステップと考えられます。

ウェアラブルは 1990 年代頃より話題になってはいたものの、携帯電話の普及などに押され、しだいに話題には上りづらくなっていました。しかしながら、Google や Apple などの開発製品化が話題となり、今や、Wearable = Wear + your + love(愛)、あるいは、Wear+able (可能性)、といったナイスな解釈、コンセプトが出てくるほど、未来市場の可能性を感じさせています。

今後のウェアラブル市場は、アプリ、デバイス、センサー、クラウド、サービス等の関連市場においても潜在需要が大きいとみられます。たとえば、アプリの世界市場は、今後、年率 30%強で成長してゆくものと予測されていますが、5 年後の 2018 年には、37,000 (millions \$)規模に達し、そのうち 20%程度がウェアラブルであり、新たに創出されるウェアラブル・アプリビジネスの可能性は極めて大きいといえます。

当調査では、端末系、アプリ系、サービス系、企画系、新発想系のビジネスモデル 30 を調査分析しています。時代の大きな流れを考えると、企業の栄枯盛衰は必ず起きており、成功企業がいつまでも勝ち続けているわけではありません。大企業でもチャレンジ精神のある企業や、先見力のあるベンチャー企業などは市場を開拓、成功へ向けて前進を続けています。

ウェアラブルビジネスにおいては、アプリ開発が重要視されてきており、キラーアプリをつかめるかどうか、独自のメソッドを組み入れられるかが、今後の勝敗の行方を左右させるといっても過言ではありません。

なお、報告書では NEXT ビジネス企画構想プロジェクトを提案しており、ウェアラブルビジネス成功と発展の展望を明確にしています。

当調査報告書は、スマートフォンの NEXT 市場に挑む、先進的企業の関係者、とくに、ベンチャー企業、社長室、企画開発室、研究所等において有益な内容となっています。

『ウェアラブル・デジタルの最先端ビジネスモデルの開発動向と戦略
ービジネスモデルの新潮流、アプリ開発、市場戦略に関する調査ー』

<http://www.aqu.com/wearable-business/>

◆レポート体裁 プリント製本 A4 版、PDF ファイル 169 頁

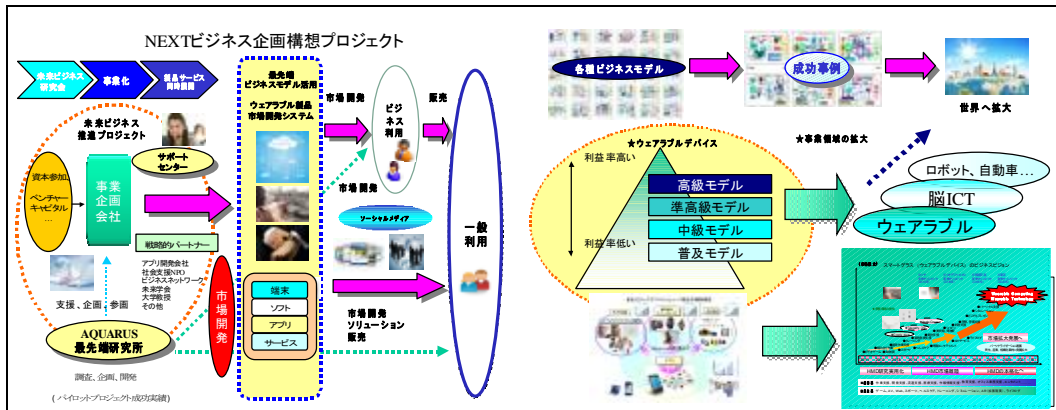
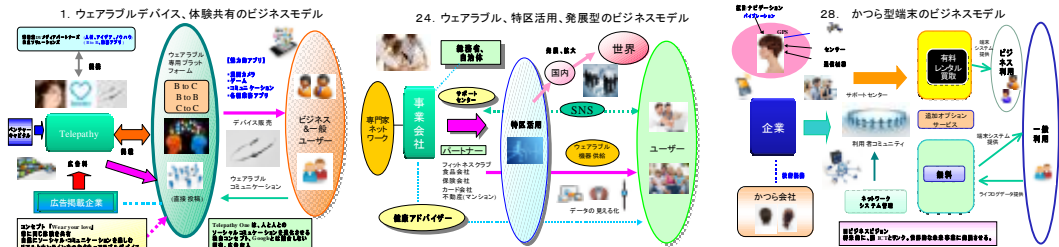
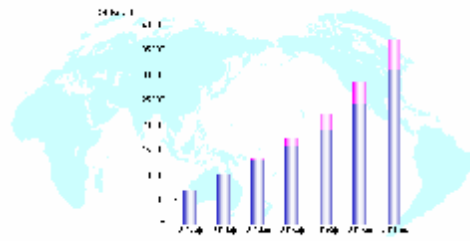
ISBN 978-4-904660-24-9

いくつかの注目ポイントについて、お知らせいたします。

【調査ポイントの一例】



ウェアラブル・アプリの市場規模推移予測(世界市場)



はじめに

次世代ビジネスモデルの重要性が高まってきている。

ビジネス戦略を進める上で、ビジネスモデルの重要性は年々高まってきている。かつて弊社では、米国におけるインターネットベンチャーを調査、数多くのビジネスモデルを調査したことがある。たまたま時を同じくして、同様に米国ベンチャーのビジネスモデルを調査していた人物は、その後、ソーシャルメディア企業を設立、上場を成し遂げ、企業グループを持つなど、サクセスストーリーを描いた。時代の最先端ビジネスモデルを数多く調査研究することは、事業を成功に導く上で、重要なステップと考えられる。

ウェアラブルは 1990 年代頃より話題になってはいたものの、携帯電話の普及などに押され、しだいに話題には上りづらくなっていた。しかしながら、Google や

Apple などの開発製品化が話題となり、今や、Wearable = Wear + your + love(愛)、あるいは、Wear+able (可能性)、といったナイスな解釈、コンセプトが出てくるほど、未来市場の可能性を感じさせている。

最近では、Google、Apple、Microsoft など世界的 IT 企業が関心を示し、またテレパシーなどのベンチャー企業も本腰を入れようとしており、一気に注目されるようになってきた。市場としては、アプリ、デバイス、センサー、クラウド、サービス等の関連市場においても潜在需要が大きい。たとえば、アプリの世界市場は、今後、年率 30%強で成長してゆくものとみており、5 年後の 2018 年には、37,000 (millions \$) 規模に達し、そのうち 20%程度がウェアラブル関連と見ている。新たに創出されるウェアラブル・アプリビジネスの可能性は大きい。

当調査では、端末系、アプリ系、サービス系、企画系、新発想系のビジネスモデル 30 を調査分析した。時代の大きな流れを考えると、企業の栄枯盛衰は必ず起きており、成功企業がいつまでも勝ち続けているわけではない。大企業でもチャレンジ精神のある企業や、先見力のあるベンチャー企業などは市場を開拓、成功へ向けて前進を続けている。ウェアラブルビジネスにおいては、アプリ開発が重要視されてきており、キラーアプリをつかめるかどうか、独自のメソッドを組み入れられるかが、今後の勝敗の行方を左右させるといっても過言ではない。その意味では、特区を活用するなど、実証実験をふまえながら、アライアンスを組んでゆくことも一案だ。

当調査報告書が、スマートフォンの NEXT 市場に挑む、先進的企業の皆様のビジネス開発、研究開発に少しでも寄与できれば幸いである。

AQU先端テクノロジー総研

※お問い合わせ連絡先

株式会社 AQU 先端テクノロジー総研

<http://www.aqu.com/>

〒260-0027 千葉市中央区新田町 36-15

千葉テックビル 6F FLPC

TEL 043-204-1258

FAX 043-204-1316

子安、那須

info@aqu.com
